

## 「ならなぎ よりみちクラブ」活動報告

報告者： 堀内けい子

日時	2022年6月8日(水) 10時30分～14時	天候	晴れ	コース名: 第31回よりみちクラブ
案内団体 又は催事名	国家筆頭の寺 大安寺を巡る			人数 27名

集合：JR奈良駅 観光案内所(旧奈良駅舎)10時30分

ガイド：山下裕章(ならなぎ会員)

行程：10:30 JR奈良駅～11:20 多門院地蔵堂～11:40 杉山古墳・大安寺杉山瓦窯跡群～11:55 北面中房跡～12:00 経樓跡～12:05 御靈神社～12:10 推古天皇社～(昼食 12:15～12:50)大安寺境内～13:30 八幡宮(元石清水八幡宮)～13:40 東・西塔跡～14:00(解散)～  
奈良交通バス停(大安寺) 行程 3.5Km

出席者：久賀田・廣瀬・玉尾(洋)・服部・村上・義田・北川・澤井・武田・上森・竹山・田中(和)・中尾・森・米田・奥山・渕・小田・風間・伊与田・近野・西本・米村・嶋村・山下(裕)・玉尾(ひ)・堀内(け)

◎旧奈良駅(寺社風駅舎)…平等院鳳凰堂をイメージして設計されたと云われる

駅西口再開発事業…100年会館は、文化の舟をコンセプト  
黒川紀章氏設計の集合住宅があるが、ちょっと寂れた感じで残っている。

◎多門院地蔵堂…大安寺が衰退していた頃、大安寺の仏像を保管

・木造地蔵菩薩立像(平安時代前期 一木造 下半身に量感がある)

◎杉山古墳…(古墳時代中期 前方後円墳)

・大安寺が建立された時、古墳も境内に取り込まれた。  
・前方部の斜面を利用し、大安寺の瓦を焼くための登り窯が造られた。

◎大安寺北面中房跡

・大安寺の僧房は、金堂・講堂を囲むように建てられ、当時887人の僧が起居していた。

◎御靈神社(元石清水八幡宮)

・807年 行教和尚が大安寺の鎮守社として、宇佐八幡宮より勧請  
お供えする闕伽井の水が湧き出た井戸が残る  
・早良親王が東大寺で出家され、一時期大安寺に移られたことがあり、御靈神社として祀られている

◎大安寺

・聖徳太子が建立した熊凝精舎が始まりで、百濟大寺→高市大寺→大官大寺→大安寺と変遷  
・東大寺ができるまでは、国家筆頭の寺として偉容を誇った。  
・菩提寺那や空海・最澄など、国内外の高僧が滞在された。  
・長寿であった光仁天皇が白壁王の時代、この地にて酒歌に興じられたことに由来し、  
癌封じ「笹酒祭」が毎年1月23日に行われている。  
・約8万坪の寺地、金堂・講堂・僧房・東西に七重の塔 …今は夢の跡 …  
・江戸時代は廃寺となり、大正9年に現本堂を建立。現在の大安寺は創建当初の1/25。  
・南大門跡…正面5間・奥行き2間(平城京の朱雀門と同じ大きさであった)  
・創建当初の本尊は釈迦如来、現在は十一面觀音。

・現本尊の十一面觀音、伝馬頭觀音立像など九体の仏像が残っている。

◎八幡宮(元石清水八幡宮)

- ・行教和尚が宇佐八幡の神を大安寺の鎮守として勧請  
(その道中、八幡大神が休まれた所が「休ヶ岡八幡宮」)
- ・中門(室町時代) 重要文化財

◎東・西塔跡

- ・金堂や講堂等とは別地に、塔院の中にある…「大安寺式伽藍」
- ・黄金の七重の塔と云われていた。 高さ70m
- ・奈良時代の心柱の礎石が西塔跡に残っている

所感等

- ・訪れる機会の少ない所ですが、大安寺は古の官大寺として壮大な規模の寺院でした。
- ・今回、奈良国立博物館で「大安寺のすべて」の展示もあり、興味を持って参加して下さった方もおられたようです  
山下さんには、いつも時節に合った案内も用意して頂き、ありがとうございます。
- ・今回は、10時半集合 14時解散と 行程も短く、ゆったりと大安寺界隈を巡ることができました。  
これからも、このような余裕のある行事も良いかと思います。

(特記事項)

- ・杉山古墳は水曜日は休みで、地元の武野さんに鍵をあけてもらった。その武野さんは平安時代、行教が宇佐八幡を大安寺に勧請したとき、宇佐よりお供した5人の内の1人、武野家の子孫と聞いて驚きました。このことは八幡宮(元石清水八幡宮)所蔵の巻物にも書いてあるとの事でした。(山下)

